

長崎県の熱中症発生状況と地域の特徴

令和6年7月11日（木曜日）

長崎県気候変動適応セミナー

～高齢者の熱中症予防のための「暑さ対策セミナー」～

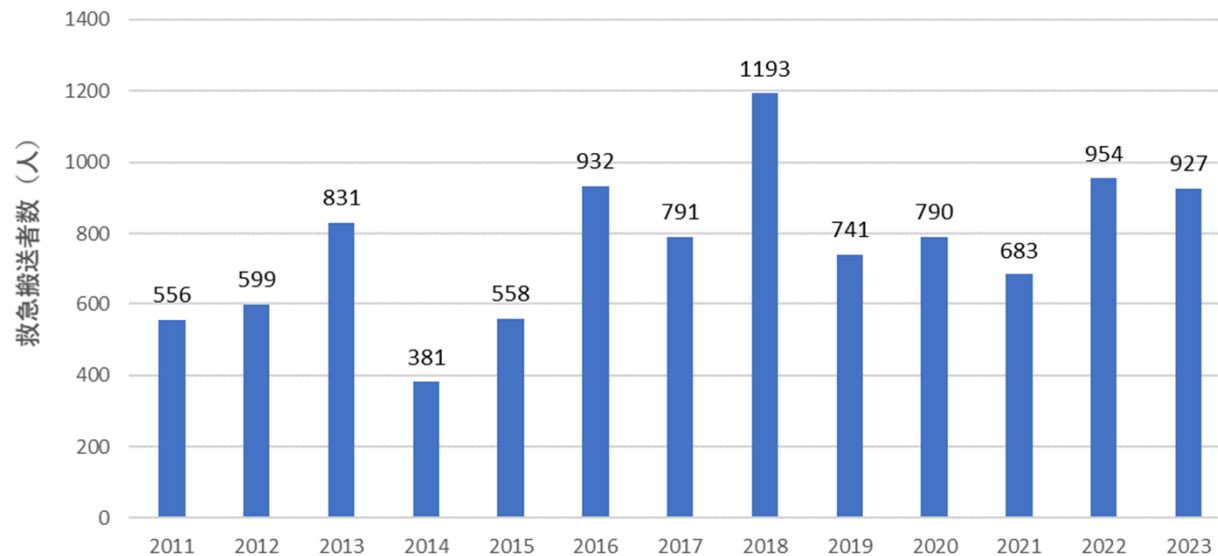
県内の熱中症の現状（救急搬送者数） その1

○長崎県内では、ここ十数年の平均で年間750人程度が熱中症により救急搬送

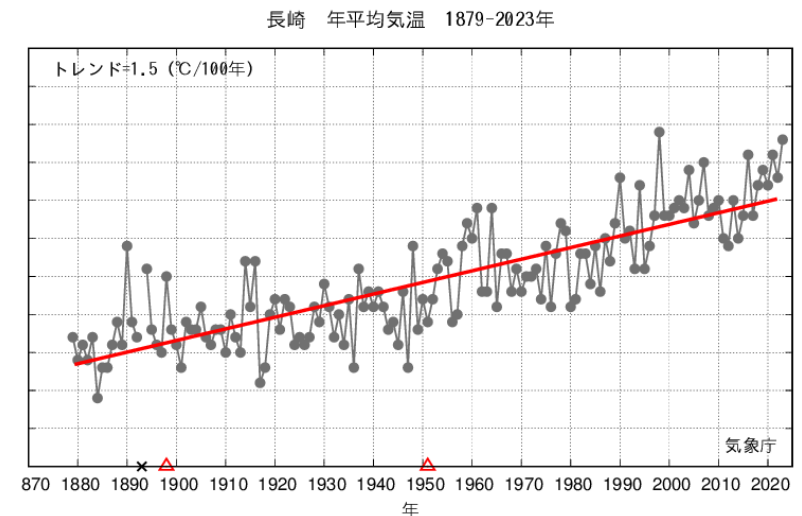
○ここ2年間は900人超

2022年（R4年）、2023年（R5年）は記録的な猛暑

長崎県内の熱中症救急搬送者数の推移



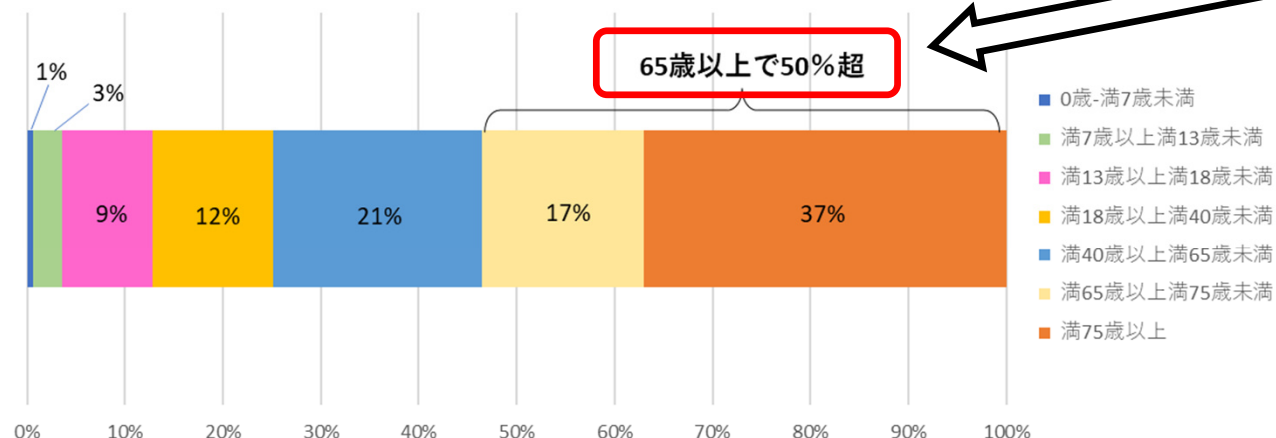
※県内の全データ（R3,R4以外は5月から10月）
2020年はコロナ禍により5月のデータ無し
R3、R4は4月の事案を含む



出典：九州・山口県の気候変動の現状と予測（福岡管区気象台）

県内の熱中症の現状（救急搬送者数） その2

年齢区分別_熱中症救急搬送者数の割合（H23-R5）

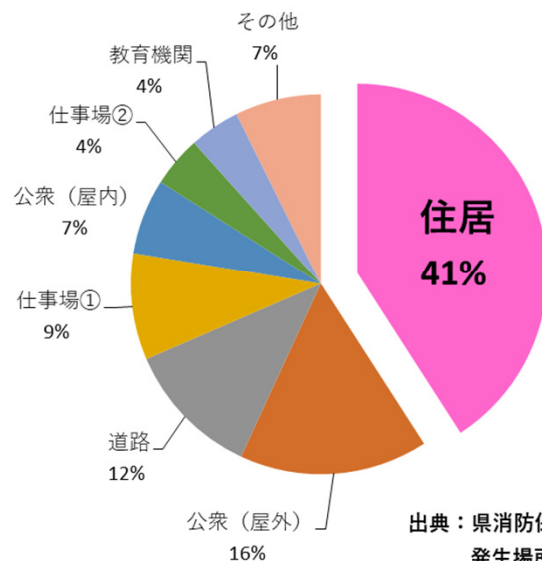


○高齢者の予防が重要！

○75歳以上は住居での発生が6割以上

出典：県消防保安室提供データより長崎県気候変動適応センターが作成

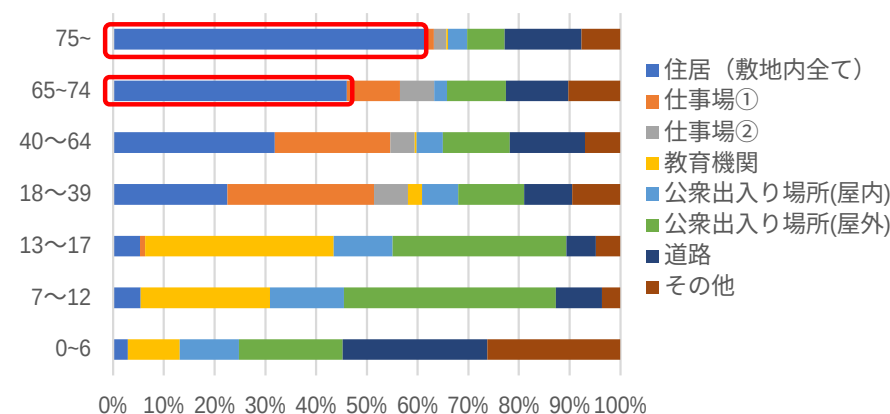
発生場所別_熱中症救急搬送者数の割合（H23-R5）



出典：県消防保安室提供データより長崎県気候変動適応センターが作成
発生場所は消防庁区分に基づく

住居	(敷地内全ての場所を含む)
仕事場①	(道路工事現場、工場、作業所等)
仕事場②	(田畑、森林、海、川等 ※農・畜・水産作業を行っている場合のみ)
教育機関	(幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、専門学校、大学等)
公衆(屋内)	不特定者が出入りする場所の屋内部分(劇場、コンサート会場、飲食店、百貨店、病院、公衆浴場、駅(地下ホーム)等)
公衆(屋外)	不特定者が出入りする場所の屋外部分(競技場、各対象物の屋外駐車場、野外コンサート会場、駅(屋外ホーム)等)
道路	(一般道路、歩道、有料道路、高速道路等)
その他	(上記に該当しない項目)

年齢別の発生場所

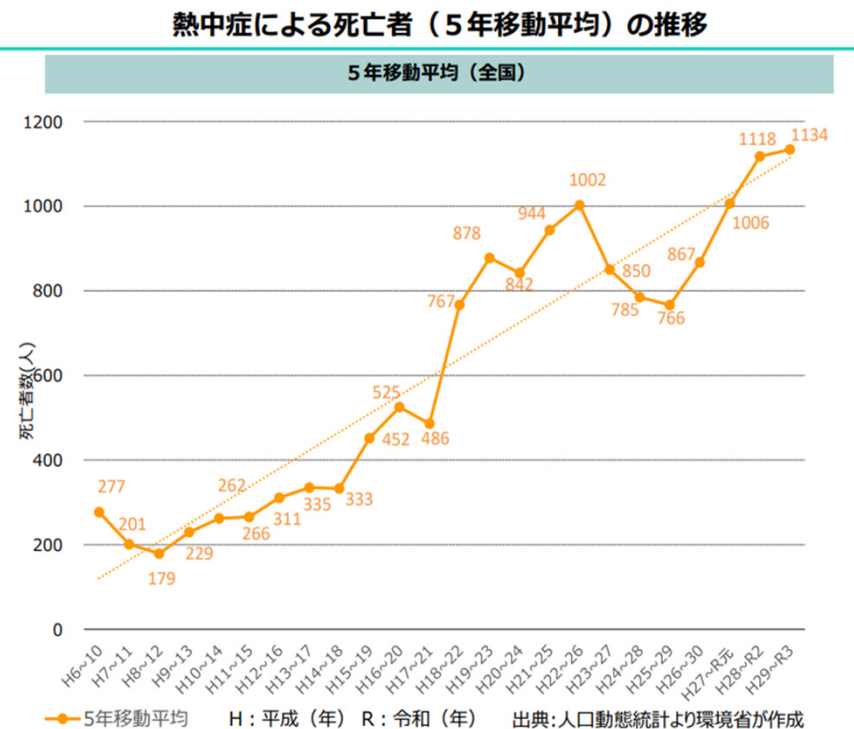
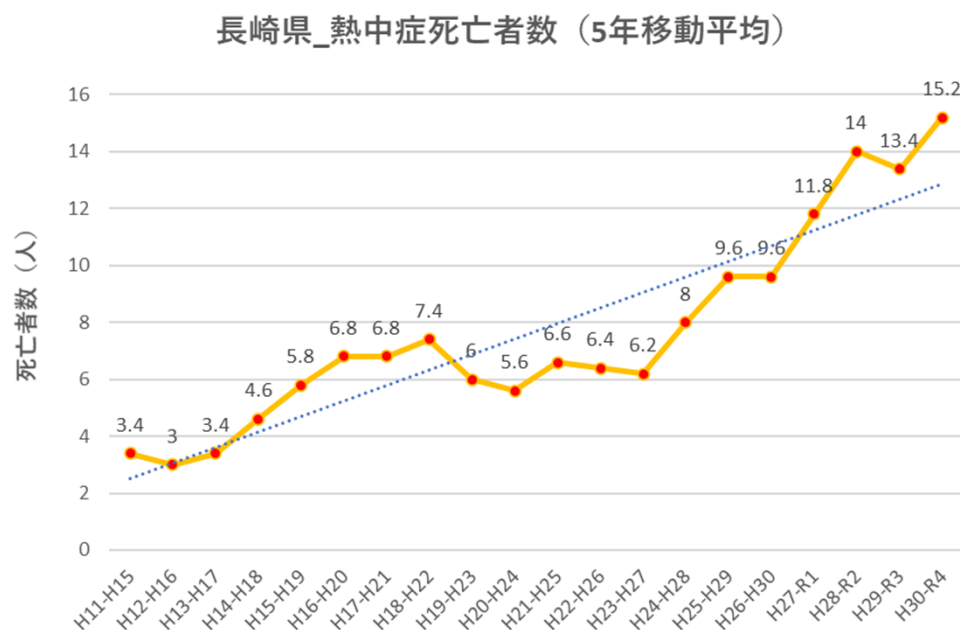


出典：R2-R4の当センター調査研究に基づく

県内の熱中症の現状（死亡者数） その1

○県内の熱中症による死亡者数は増加傾向

猛暑であった令和4年は22人で平成11年以降最多

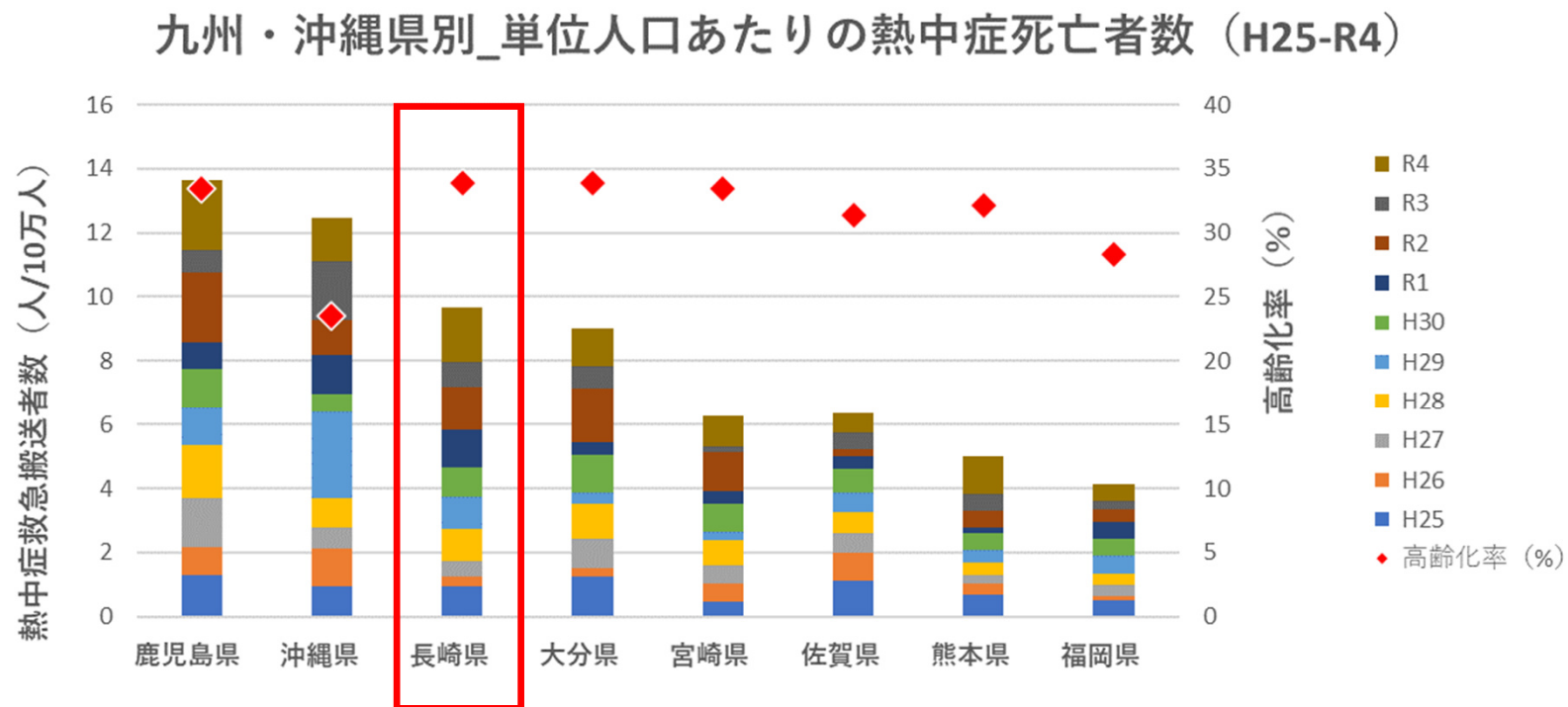


	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
長崎県内の熱中症 救急搬送者数	462	556	592	824	373	536	922	790	1193	741	789	683	954	927
死亡者数※	7	4	5	12	4	6	13	13	12	15	17	10	22	-

※人口動態統計より（H21以前は記載省略）

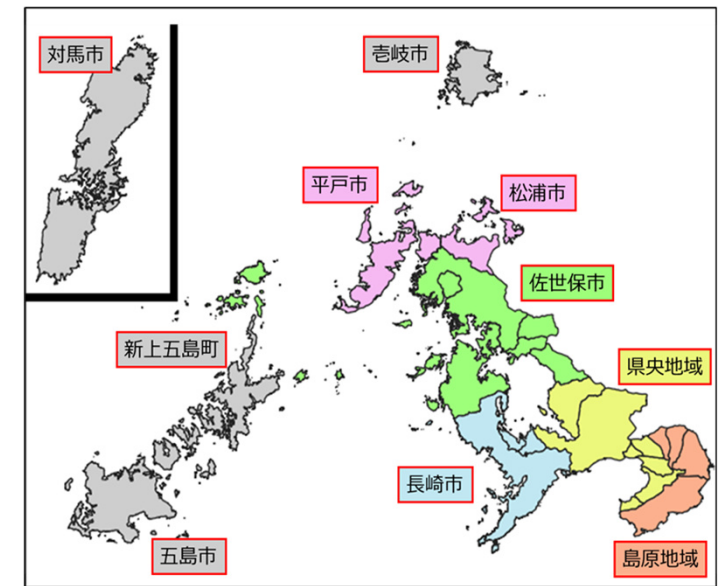
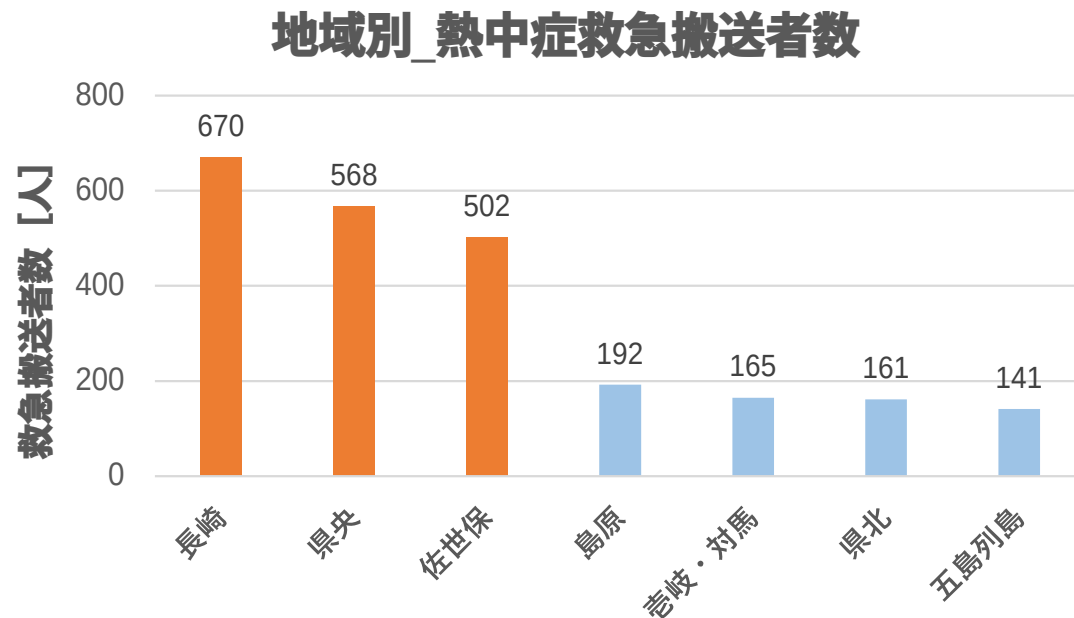
県内の熱中症の現状（死亡者数） その2

○長崎県は九州・沖縄各県の中で3番目に死亡者数が多い（単位人口あたりで比較）

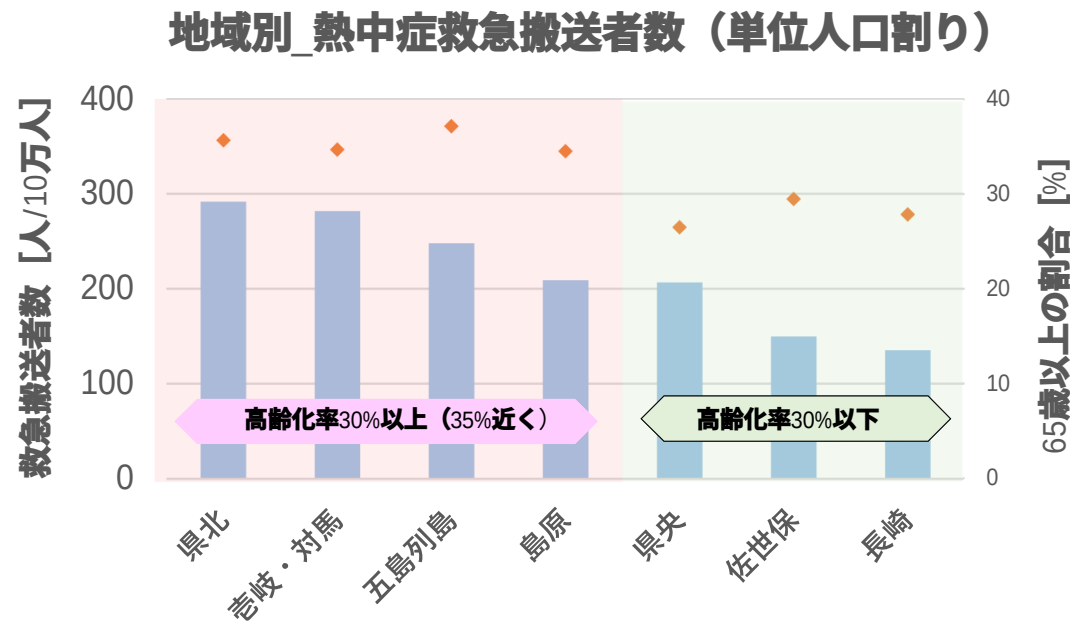


出典：人口動態統計及び令和5年度版高齢社会白書より長崎県気候変動適応センターが作成
高齢化率は65歳以上の割合を使用

地域別の熱中症救急搬送者数



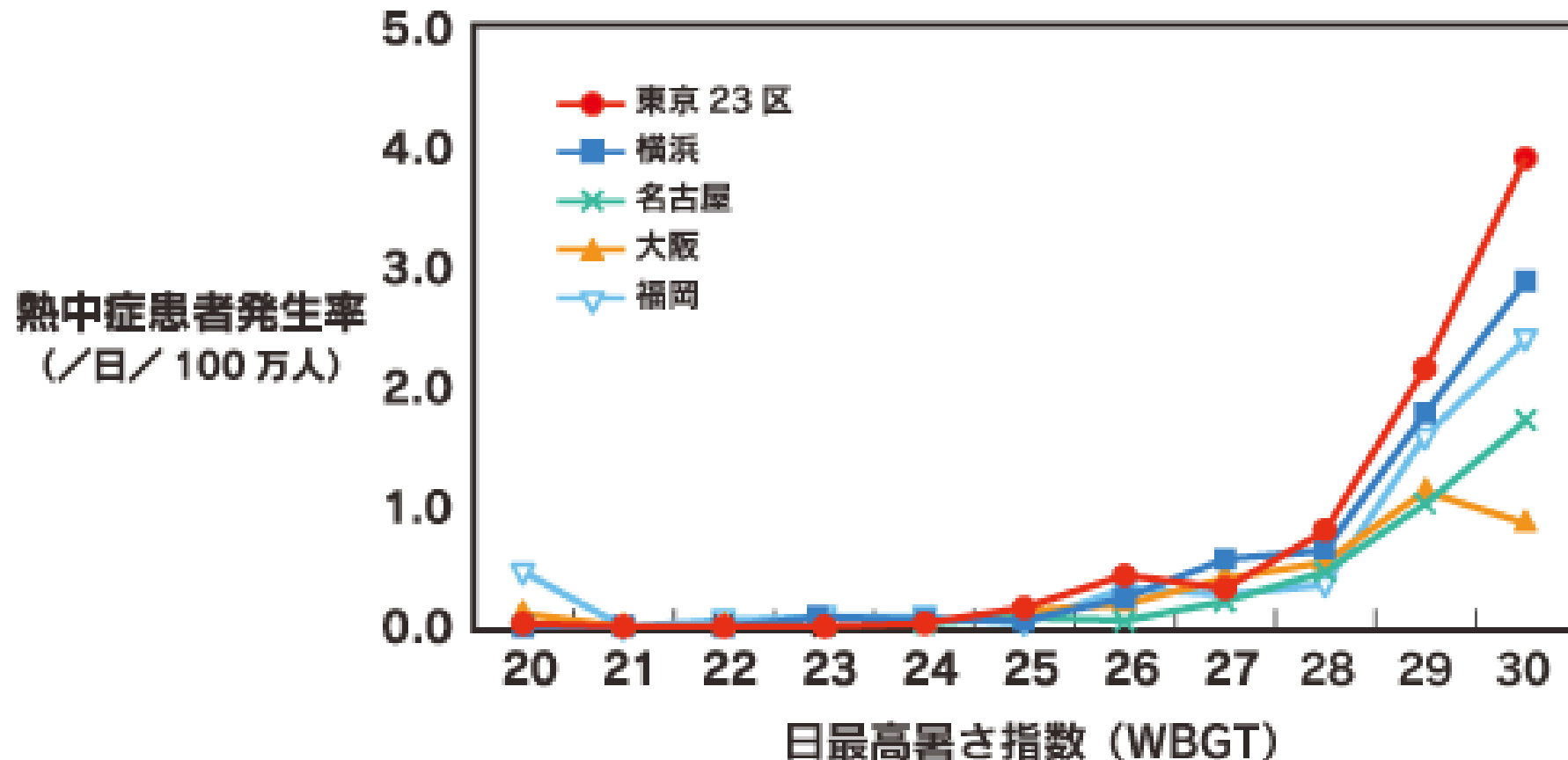
地域の区分



- 実数：多
→人口規模が大きい地域
- リスク：高
→高齢者が多い地域

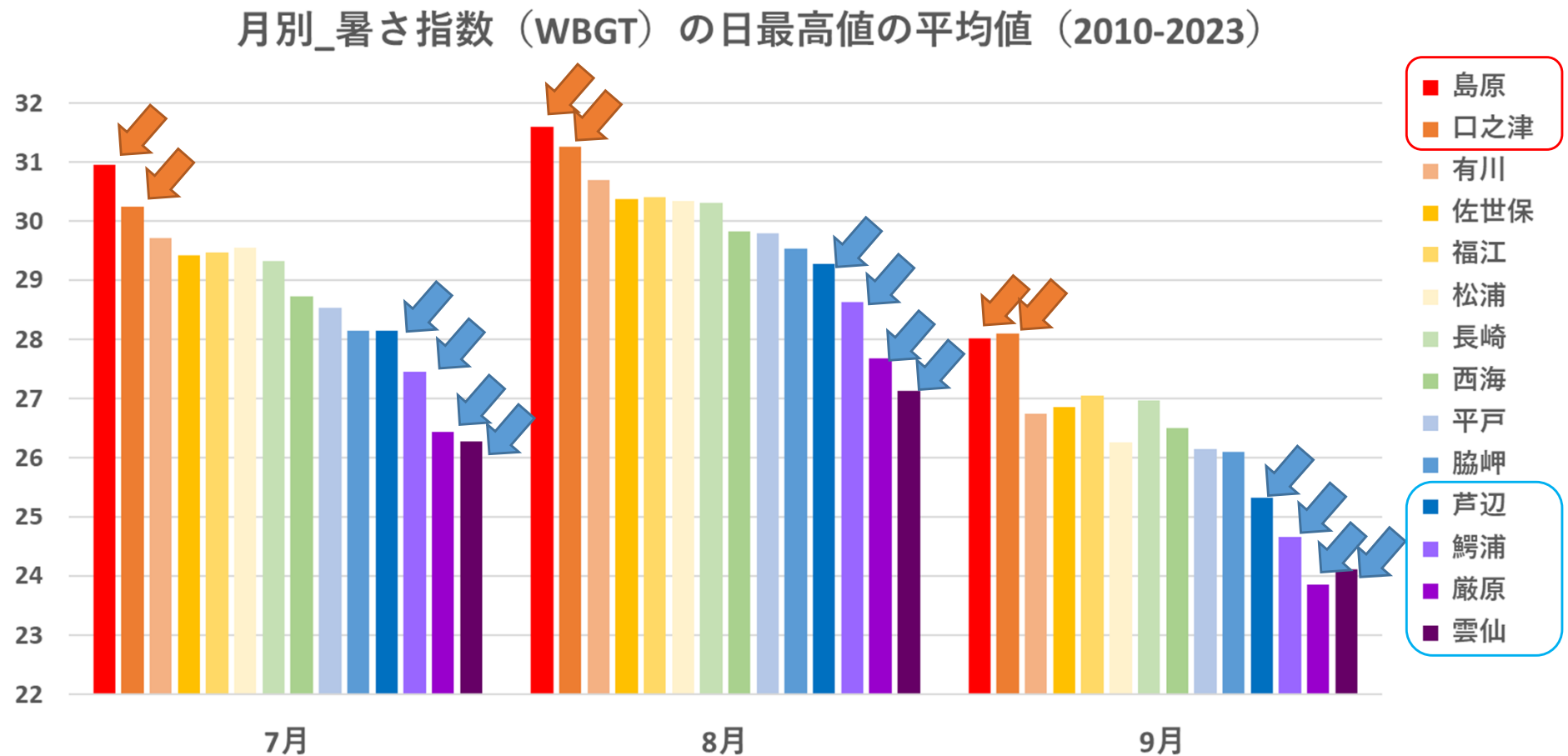
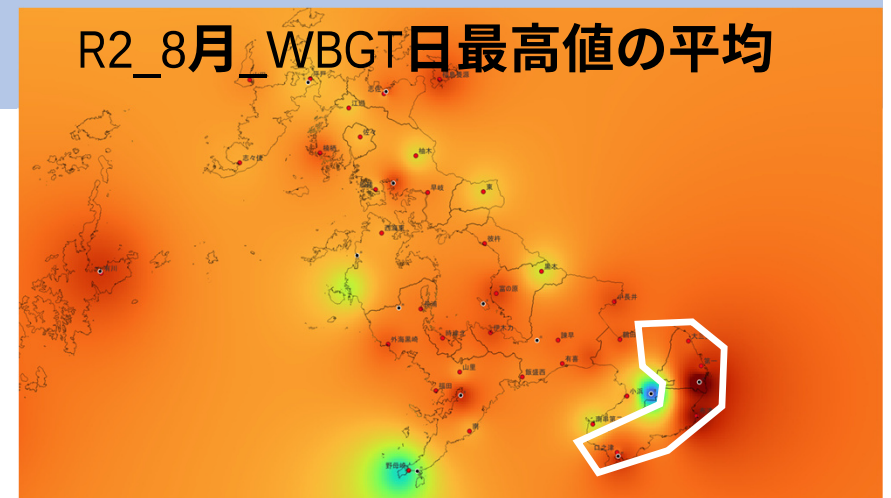
暑さ指数（WBGT）と熱中症

- 暑さ指数とは、熱中症予防を目的とした指数
気温、湿度、日射・輻射等の周辺環境の影響を加味したもの
- 一般に、日最高暑さ指数が 28℃程度から熱中症患者が急激に増加



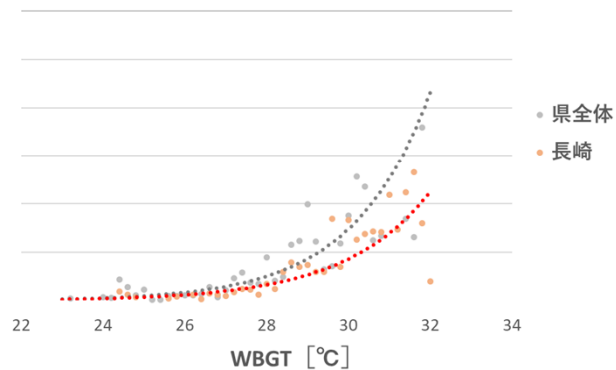
県内の暑さの特徴

- 島原地域（島原市、南島原市）が特に暑い！
- 壱岐・対馬・雲仙岳は比較的涼しい傾向

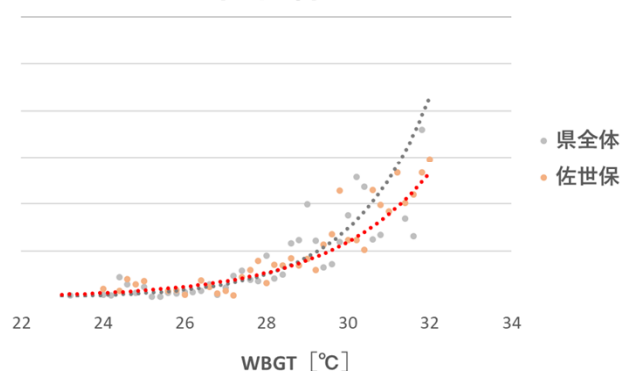


暑さ指数 (WBGT) と熱中症 ～県内地域別～

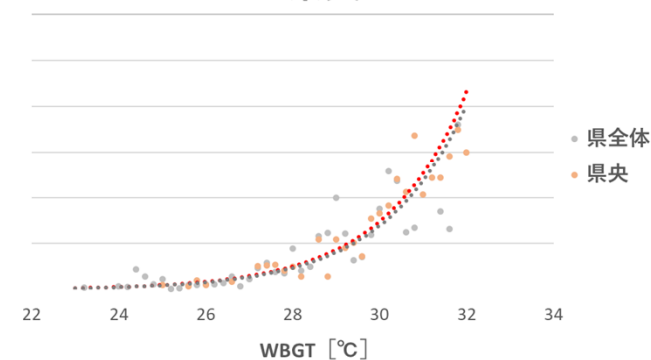
長崎



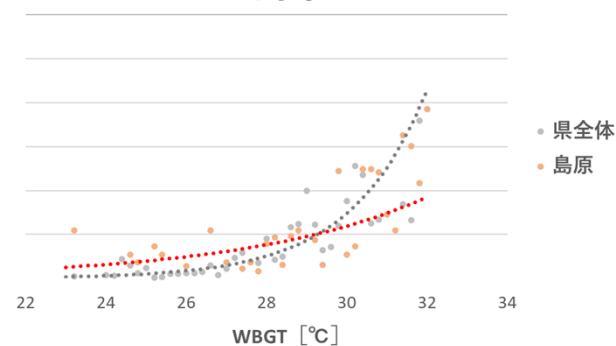
佐世保



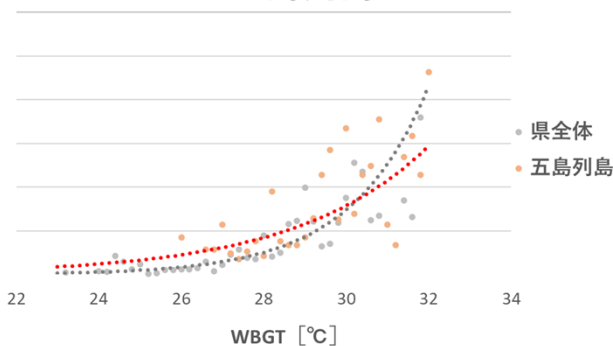
県央



島原



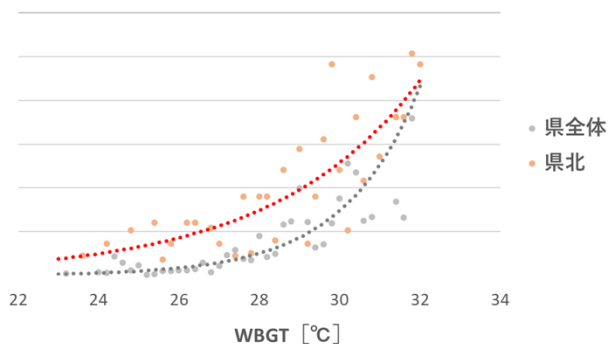
五島列島



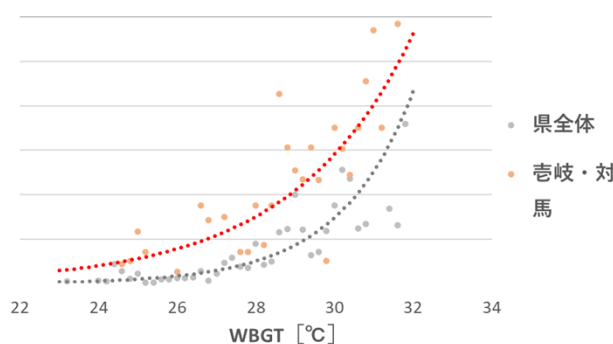
↑県の平均と近いが、ややカーブが緩やか

←低WBGT域では県平均を上回るが高WBGT域では伸びが緩やか

県北

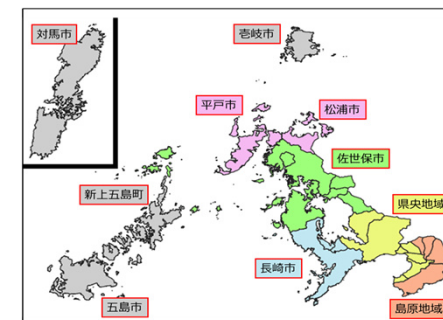


壱岐・対馬



←終始、県平均を上回る低WBGTから熱中症が発生している状況

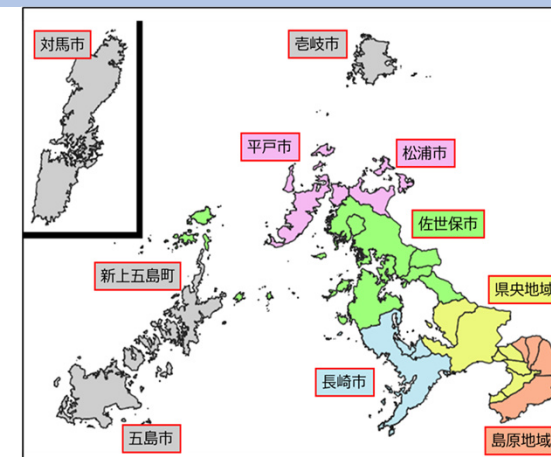
グラフ等：R2-R4の当センター調査研究に基づく



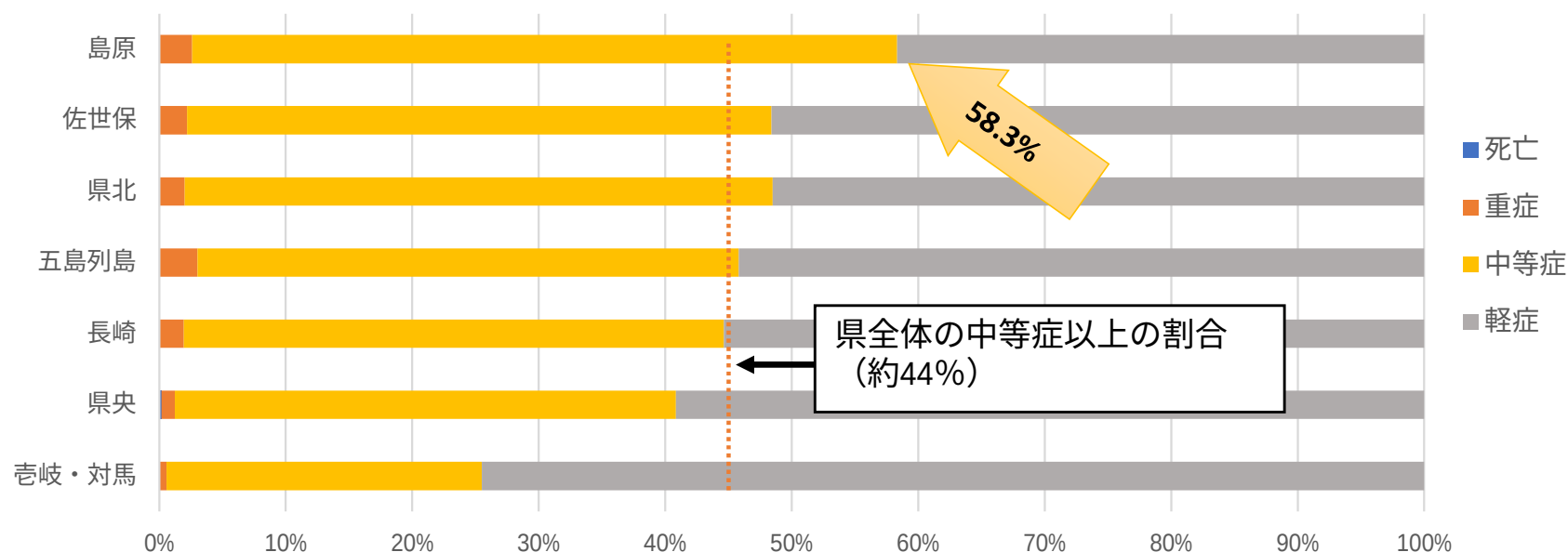
傷病程度からみた地域の特徴①

○島原地域では入院（中等症以上）となるケースが多く特に注意が必要※

※R2-R4のデータです。



初診時における傷病程度



死 亡：初診時死亡確認

重 症：要入院（3週間以上）

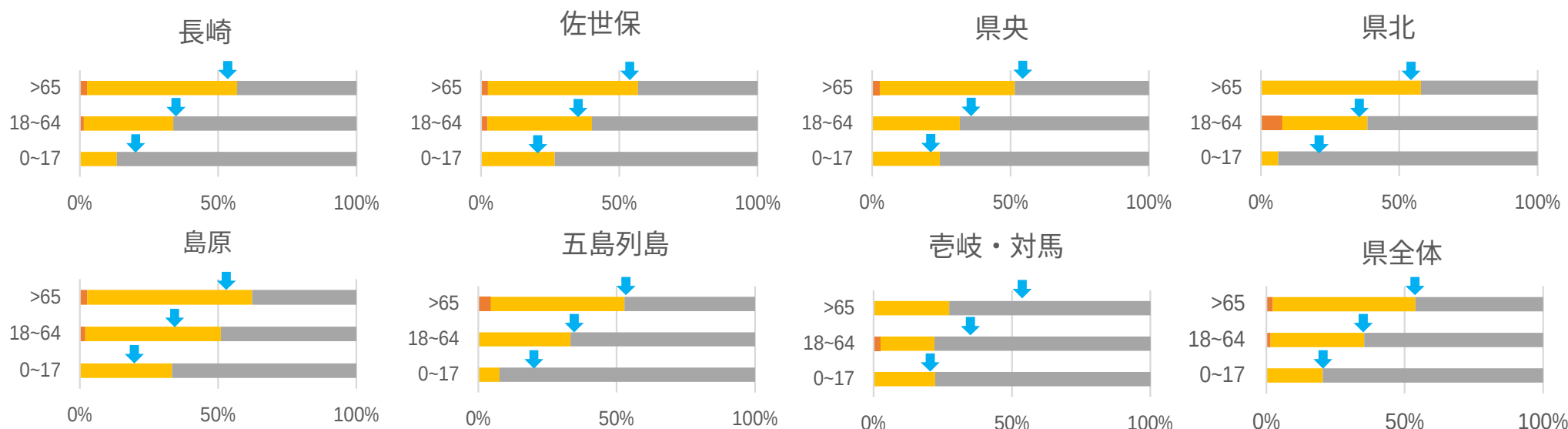
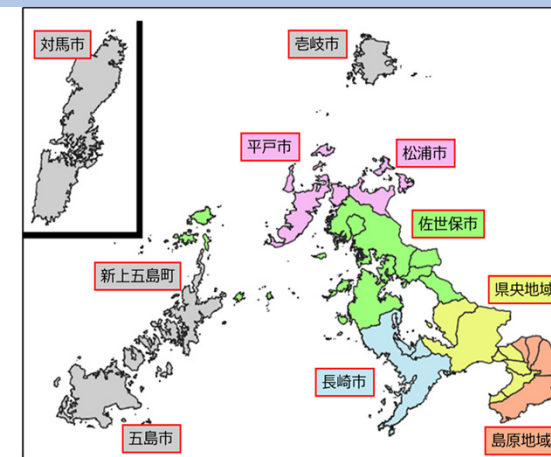
中等症：要入院（重症以外）

軽 症：入院の必要なし

傷病程度からみた地域の特徴②

○65歳以上で見ると、半数以上が中等症
(要入院) 以上！

※壱岐・対馬除く



図中の矢印 (↓) は県全体の平均の位置を示す。

まとめ

- ◆熱中症救急搬送者数 : 増加傾向
- ◆熱中症による死亡者数 : 増加傾向
- ◆年齢別割合 : 65歳以上が 5 割超
- ◆発生場所 : 65歳以上は自宅がほとんど
(75歳以上は6割が自宅)
- ◆涼しい地域は暑さ指数が低くても要注意！
- ◆暑い地域は重症化しやすいのでさらに注意！
- ◆今年の夏も暑くなる！？

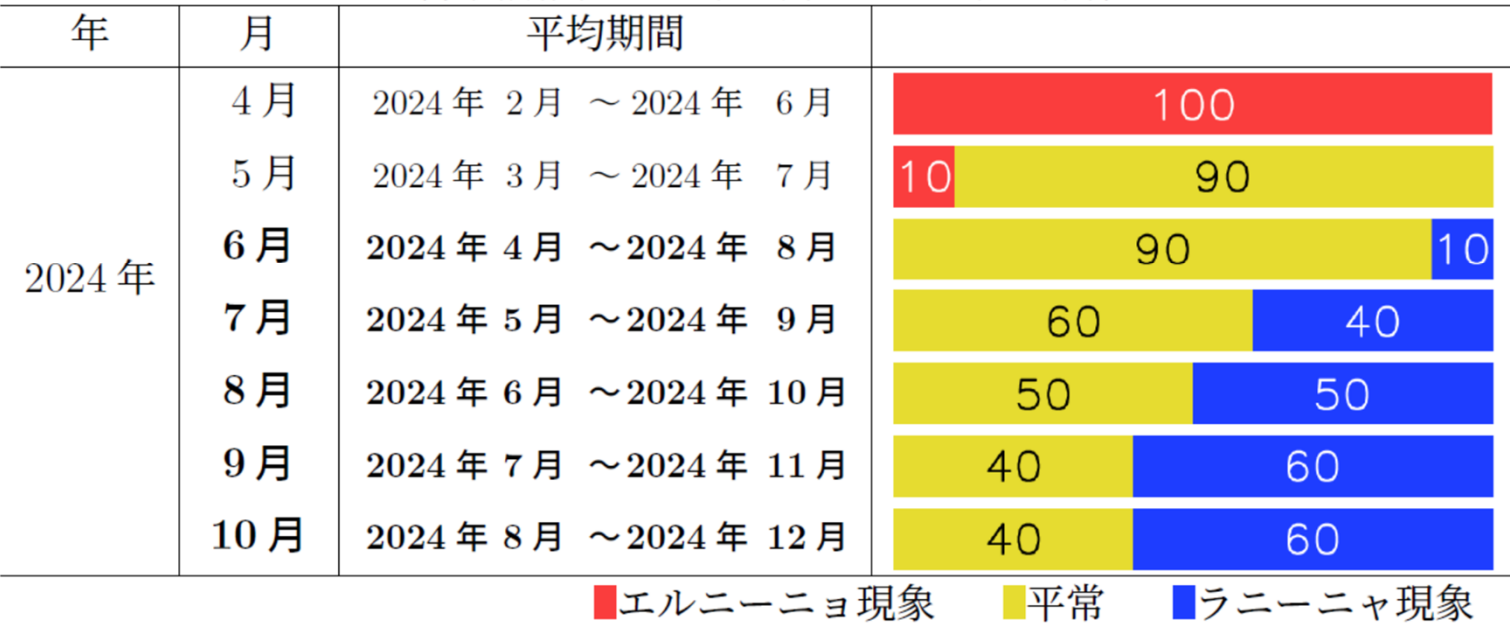
2024年の夏も暑い！？

○気候は複雑で一概には言えませんが、一般的には以下になると言われています。

- ・エルニーニョ現象：冷夏・暖冬
- ・ラニーニャ現象：暑夏・寒冬

○今年は夏後半からラニーニャ現象に移行する可能性が高まる予測であり、民間の気象関連会社も例年以上に暑くなると予想しています。

エルニーニョ／ラニーニャ現象の発生確率
(予測期間:2024 年 4 月～2024 年 10 月)



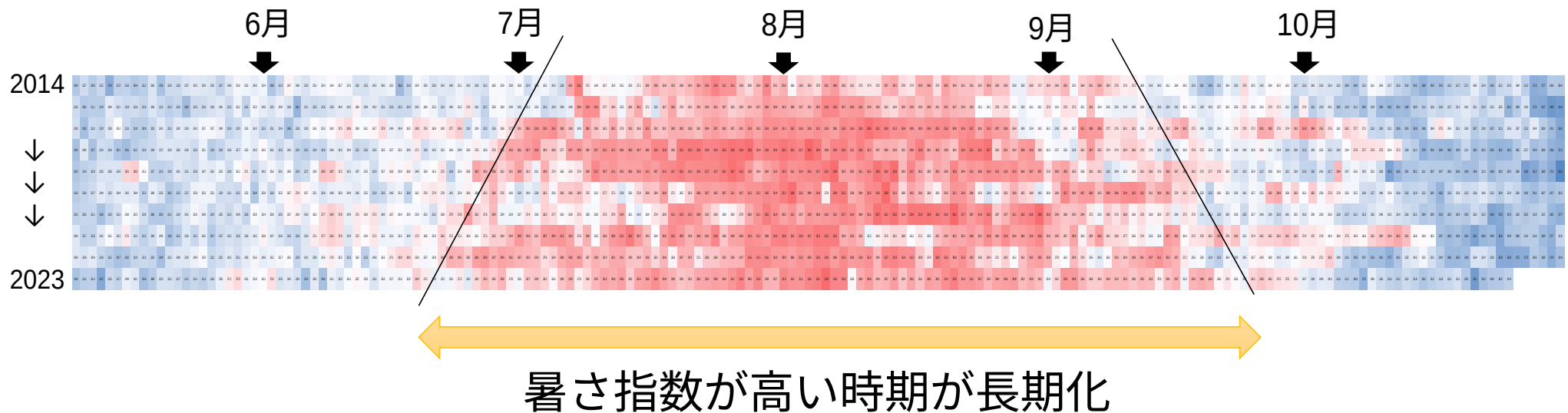
おわりに

- この10年で見ても夏が長期化している？（下図）
- 直近の7月7日には、静岡県駿河区で最高気温 **40.0℃** を記録し、全国各地で35℃以上の猛暑日を記録
- さらに厳しくなる「暑さ」に「適応」していくことが重要



セタって涼しかった
イメージがあったん
ですが...

【日最高WBGTの推移（地点名：長崎）】



出典：熱中症予防情報サイト（環境省）のWBGTデータから当センターが作成